



## 植物熱耐性向上資材研究開発コンソーシアム設立のご案内

平成 29 年 10 月 17 日  
植物熱耐性向上資材研究開発コンソーシアム

国立大学法人静岡大学  
国立大学法人三重大学  
国立大学法人新潟大学  
株式会社メニコン

平成29年5月1日に静岡大学、三重大学、新潟大学、株式会社メニコンが共同で設立しました「植物熱耐性向上資材研究開発コンソーシアム」に関し、静岡大学において10月16日に設立式を挙行し、同大学内に推進室（専用のラボ）を下記の通り開室しましたので、ご報告申し上げます。

本コンソーシアムは、平成26年4月より開始した静岡大学グリーン科学技術研究所、株式会社メニコンとの共同研究から派生した組織であり、「植物熱耐性向上資材」の製品開発を目指すものです。既に関連技術は、共同特許出願を実施しております。また、将来の商品化は株式会社メニコンが担います（平成31年の商品化を目指す）。本推進室開室に伴い、より一層本コンソーシアムの研究開発が推進され、商品開発に寄与するものと考えます。

### 記

#### <推進室設置場所>

静岡大学 静岡キャンパス 総合研究棟 425号室

#### <研究代表者>

静岡大学 グリーン科学技術研究所	教授 原 正和
三重大学 生物資源学部	教授 平塚 伸
新潟大学 農学部	教授 三ツ井 敏明
株式会社メニコン 生産開発統括本部	課長 杉江 稔正



看板上掲式の様子。

左から、原教授、三ツ井教授、石井静岡大学長、杉山メニコン統括本部長、平塚教授

#### <研究概要>

地球温暖化の進行により、毎年のように平均気温が上昇しており、特に夏の酷暑は農作物へ多大な悪影響（高温障害）を及ぼします。酷暑による水稻の白未熟粒の発生は有名であり、農家の収益に影響を及ぼすことが知られています。

静岡大学グリーン科学技術研究所原教授は、10年程前より植物に対する熱ショック応答（熱ショックタンパク質：heat shock proteinの発現）について研究しております。その研究の過程で、様々な物質により、植物は熱耐性を獲得できることを発見しました。その後、株式会社メニコンと共同研究を推進し、有望な物質Xを発見することができました。

この度、この物質Xを用いた農業資材の商品化を目指し、三重大学平塚教授、新潟大学三ツ井教授も加わって、共同で商品化に向けた様々な取り組み（本コンソーシアムの設立）を行いました。

#### <分担>

静岡大学 グリーン科学技術研究所	実験植物を用いた熱ショック応答のメカニズム解明
三重大学 生物資源学部	果樹を用いた有効性確認、メカニズム解明
新潟大学 農学部	水稻を用いた有効性確認、メカニズム解明
株式会社メニコン	効果を示す農作物の探索、商品化推進業務

以上